〔伊呂波字類抄加飲食〕飧飯カシキカテ亦作粗粥、雜飯也、

〔段注說文解字五下食〕𩚬、襍飯也、从食丑聲、女久切、三部、按米部曰、粗、襍飯也、此𩚬篆蓋俗增、故非其次、宜刪、

〔段注說文解字七上米〕粗、襍飯也、食部曰、𩚬、襍飯也、廣韵曰、𩚬亦作粗、然則𩚬粗一字、今之糅襍字也、从米丑聲、女久切、三部、

〔東雅十二飲食〕飯イヒ　カシキカテとは今も穀蔬の類をもて雜炊げるものゝあるこれ也、古俗凡ッ物の雜り加れる事をカテといふ也、されば雜の字亦讀でカテとはいふ、されど粮の字讀てカテといふ事もあれば、カシキカテといふ、別に其義もやあるらん、不詳、

〔倭訓栞前編六〕かしぎかて　倭名抄に𩚬飯をよめり、雜飯也と注せり、俗にかんじきといふ是なるべし、今いふ雜炊の義也、

〔飯粥考〕𩚬飯カシキカテ

按に𩚬飯は、今の赤飯などのごとく、黑豆、小豆、角豆、なにゝもあれ、合て炊たるをいふ、和名抄釋義飲食部にも𩚬飯炊合といへり、万葉集五の卷に、老爾氏阿留我身上爾病遠等加氐々阿禮婆云々、○中略推古紀三年四月の條に、島人不知沈水、以交薪燒於竈云々、文選蜀都賦左思三都賦の一に、雜以蘊藻、糅以蘋蘩云々、○中略などあるにて、加天は合雜の義なること知べし、

〔秋苑日涉八〕諸飯合飯

周禮膳夫職、凡王之饋食用六穀、鄭司農曰、六穀稌、黍、稷、粱、麥、苽、苽彫胡、宋玉諷賦、炊彫胡之飯、西京雜記曰、菰之有米者、長安人謂爲彫胡、又曰、會稽入顧翱、少失父事母至孝、母好食彫胡飯、遵生八牋曰、凋菰卽今胡穄也、曝乾、礱洗造飯、香不可言、北堂書鈔引漢舊儀曰、齊則陳九穀飯、周禮、三農生九穀、鄭司農曰、稷秫麥稻麻大豆大小麥、鄭玄乃無秫大麥、而有粱、苽、炙穀子曰、九穀、黍、稷、麻、麥、稻、粱、苽、大小豆、酉陽雜俎曰、九穀、黍、稷、稻、粱、三豆、二麥、蓋諸穀皆可以爲飯、今人亦爲黍、粟、豆、麥之飯、多配之稻米、不知古人亦然否、魏晉以來、椽、椹、棗、箕等飯、往々見史乘、大域後人率意製造、固無定品、凡今人所造赤豆、豇豆、芋、栗等飯、謂之合飯、